

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

富士警察署管内の地域安全推進員は、地域の防犯リーダーとして地域と警察のパイプ役を担っています。今回は「富士エレガンス」と名づけられた推進員の女性部会をご紹介します。

富士エレガンス

富士エレガンスは、女性の視点から身近な犯罪の防止を考えようと一昨年に発足。市内に約百八十人いる地域安全推進員のうち、二十九人の女性がそのメンバーとなっています。会では昨年、県内でも初めての試みとして手づくりの「身近な犯罪発生マップ」を完成させ、市内各公民館に設置しました。

そしてことしは、マップとともに、子供たちの誘拐事件防止をねらいに、「五つのやくそく」と題した紙芝居を作成。公園で遊んでいた男の子が、若い男に

ゲームソフトを買ってあげると話しかけられ、連れ去られるというストーリーの中に、「知らない人にはついていけない」、「二人では遊ばない」など五つの約束を盛り込み、子供たちに注意を促しています。

富士エレガンス会長の鈴木光代さんは、「マップや紙芝居を通じて、地域での犯罪防止の意識を高めることができればと思います。この紙芝居を使って、子供たちの前で上演会を開く予定です。私たちメンバーも身近な地域のことをもっとよく知り、周りの皆さんと声をかけ合いながら犯罪を未然に防いでいきたいと思っています。これからこうした活動を続けていき、犯罪の防止につなげていきたいです」と話してくれました。



▶紙芝居の制作風景



▲富士エレガンスの皆さん



子供たちにけん玉を教えているけん玉の達人

内田 初雄さん

(鈴川西町)



内

田さんは、静岡県けん玉連盟副会長を務め、県知事からも伝承遊びマイスターの認定を受けているけん玉の達人。内田さんは昭和六十一年に警察官を定年退職後、子ども会や公民館などで、子供たちに本格的にけん玉を教え始めました。現在、広見にある児童分館などでけん玉教室を開き、けん玉の技やおもしろさを子供たちに伝授しています。そして、今までに教えた子供は七千人以上。子供たちからは、「優しいけん玉先生」として親しまれています。

内田さんは、「けん玉を始めたのは小学校入学のころ。祖母にけん玉を買ってもらったことがきっかけです。けん玉にはおよそ三百の技があります。『灯台』、『世界一周』などおもしろい名前がついているものもありますよ。そして、技の習得度に

よって級が決められています。けん玉のだいたい味は、難しい技ができたときの喜びにありません。できなくて悔しい思いをして練習を重ね、できるようになったときの喜びは格別ですね。また、級認定の試験のときの緊張感はなかなか味わえませんよ。子供たちがけん玉に夢中になっている姿を見ると、昔の自分にも重なるときがあります。これからもお声がかかる限り、けん玉を教え続けたいと思っています。」と話してくれました。



▲児童分館で行われているけん玉教室の様子